

諏訪圏域障がい者総合支援センターオアシス 事業報告 令和 3 年度

1 基幹センターとしての地域の体制整備

< 重層的な相談支援体制 第 3 層 >

◎総合相談・専門相談

総合相談を担う組織として、福祉サービスの利用援助、社会生活力を高めるための支援、専門機関の紹介等、市町村等他の相談窓口と重なり合う部分を増やすことを心がけた。

発達障がい児者支援では、発達障がいサポート・マネージャーが担当相談員への支援指導を行いながら、当事者の望む生活を目指して年単位での支援を続けることが増えてきた。家庭で生活する強度行動障害児の支援では、地域の事業所で支える限界が見えた事例があり、児童相談所との連携の必要性を実感した。矯正施設退所者の生活の場づくりの支援では、長野県地域生活定着支援センターとともに、不動産屋や配食業者も含む大きな支援チームを作り、温かく見守り続ける支援体制を維持している。

総合相談・専門相談を支える相談員の資質向上のために、オンライン配信の研修受講を積極的に行う、最新の情報を毎朝朝礼時に共有する、あるいは回覧する等を継続している。また、新任職員の研修では、相談員全員がそれぞれの専門分野の講義を行い、研修と同時に、他者に説明することで、自己の振り返りと研鑽の機会としている。

◎地域の相談支援体制の強化の取組

障がい福祉に関係する他の相談窓口や、それ以外の機関等と、個々の事例での積み上げから、組織として繋がる仕組み作りを意識して業務を進めてきている。児童養護施設や児童発達支援センターとの連携強化について所内で協議を行った。地域生活支援拠点や精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムなど、新規の体制づくりについては、オアシスの各コーディネーターと自立支援協議会（行政連絡会、各委員会・部会）とが協力し、諏訪圏域に必要な体制を作り出していきたい。

相談支援事業所との連携強化・人材育成のために事業所訪問を行った。今年度は、発達障がいサポート・マネージャーも同行し、発達障がい児者支援に関する聞き取りも行った。昨年同様に、所内で地域課題を抽出した後、自立支援協議会相談支援部会へ報告を行う。

ストレングスモデルによるグループスーパービジョン（GSV）の事例検討会を毎月開催している。今年度は、事業所からの希望に応じ、隔月で午前中と夕方に設定した。相談支援専門員、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者以外の参加者も少しずつ増えてきている。行政職員や地域の機関・事業所の人材育成も視野に入れ、様々な人に参加をよびかけていきたい。また訪問 GSV として、他事業所の主任相談支援専門員とともに、1 事業所の職員研修会として GSV を開催した。事業所職員 8 名と通所者の検討を行い、振り返りの場と

併せて OJT 研修支援とした。令和 4 年度は、GSV 定期開催の中で年 3 回を、事業所への訪問開催として予定としている。

圏域研修会として行政職員研修会を 6 月に初めて開催した。研修内容は行政新任職員への障害福祉への理解と連携体制づくりを目的としたものであるが、研修会企画自体も地域の連携体制作り・人材育成を目的としており、主任相談支援専門員、行政（係長）、すわーく・らいふ、オアシス職員とで講義を企画分担した。内容については、毎年ブラッシュアップしていくことで、より効果的な研修会となると考える。新人職員研修会・合同研修会は 2 年続けて開催することができず、令和 4 年度での実施を目指す。

長野県相談支援従事者研修【初任者研修・現任研修・主任研修】の演習講師を 4 名が担った。初任者・現任研修に含まれる圏域実地（インターバル）研修も実施し、圏域内の顔の見える人材育成に取り組むことができた。初任者研修受講者が、新規相談支援事業所の開設の際にオアシスへ研修に来てくれるようになった。複数職員で計画相談の研修を行っている。

上小圏域、上伊那圏域の基幹センター・主任相談支援専門員とともに、厚生労働科学研究費補助金「障害分野の研修及び実地教育（OJT）の効果の検証及び効果的な実施のための要因解明のための研究」実地教育従事者養成研修（オンライン）に参加し、埼玉県、福井県の従事者とともに、実地教育（OJT）について実践し検証と効果の測定を行った。

療育コーディネーター／障がい者就業・生活支援センターすわーくらいふとの定期連絡会、諏訪養護学校支援会議・移行支援会議、特別支援教育コーディネーター等連絡会等へはコロナ渦においても可能な限り出席し、地域の状況の共有と把握に努めた。

◎地域移行・地域定着

地域移行支援事業の利用は 2 名。定着支援事業の利用者は 2 名。短期の入院者など、地域移行支援事業を利用せずに行った退院に関する支援は 74 件だった。

矯正施設からの退所者 1 名については、長野県地域生活定着支援センターとともに支援を行っている。数年前より矯正施設退所者の支援事例が増えており、今年度、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園より「地域生活定着支援センターとの連携を中心とした障害者の入口支援を効果的に実施する方法に関する調査研究」への協力依頼があり、聞き取り調査に協力した。

第 6 期障害福祉計画・第 2 期障害児福祉計画の成果目標となっている「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの協議の場」の設置後は、協議構成員と協力し、地域生活支援コーディネーターが地域移行時に必要となる資源や地域の体制作りの協議を重ねていく。

◎権利擁護・虐待防止

障がい児者の権利侵害について常に高い意識を持ち続け、見逃さずに反応できるよう、日々、職員間での相談や報告を丁寧に行っている。日々の業務の中で、さまざまな「権利」「意思決定支援」「ご本人の決定を待つ支援」を強く意識している。

成年後見制度利用支援に関しては、圏域 3 センターと連携し利用促進を行った。金銭管理に福祉サービス等では解決できない課題がある方の事例が増えている。どのような方は後見人が必要かについての検証の積み上げが必要であると感じた。また、司法に関する支援は 53 件行った。執行猶予中の方など権利擁護と再犯防止との両輪の支援が必要であった。

地域全体として虐待防止に取り組むために、事業所職員や相談支援専門員からの「虐待ではないけれど、不適切な支援ではないか」という声は常に真剣に受け止め、適切な支援に向かえるよう助言・支援を行っている。

< 重層的な相談支援体制 第2層 >

◎障害者相談支援事業（市町村相談支援事業）

新規の相談者やご家族、支援機関からの圏域相談窓口となっている。市町村福祉課と連携し、制度の申請手続きや医療機関・多機関の紹介、障害福祉サービスを利用されていない方の生活支援などを行っている。また、異動のある行政職員の支援の繋ぎ部分を担っている。

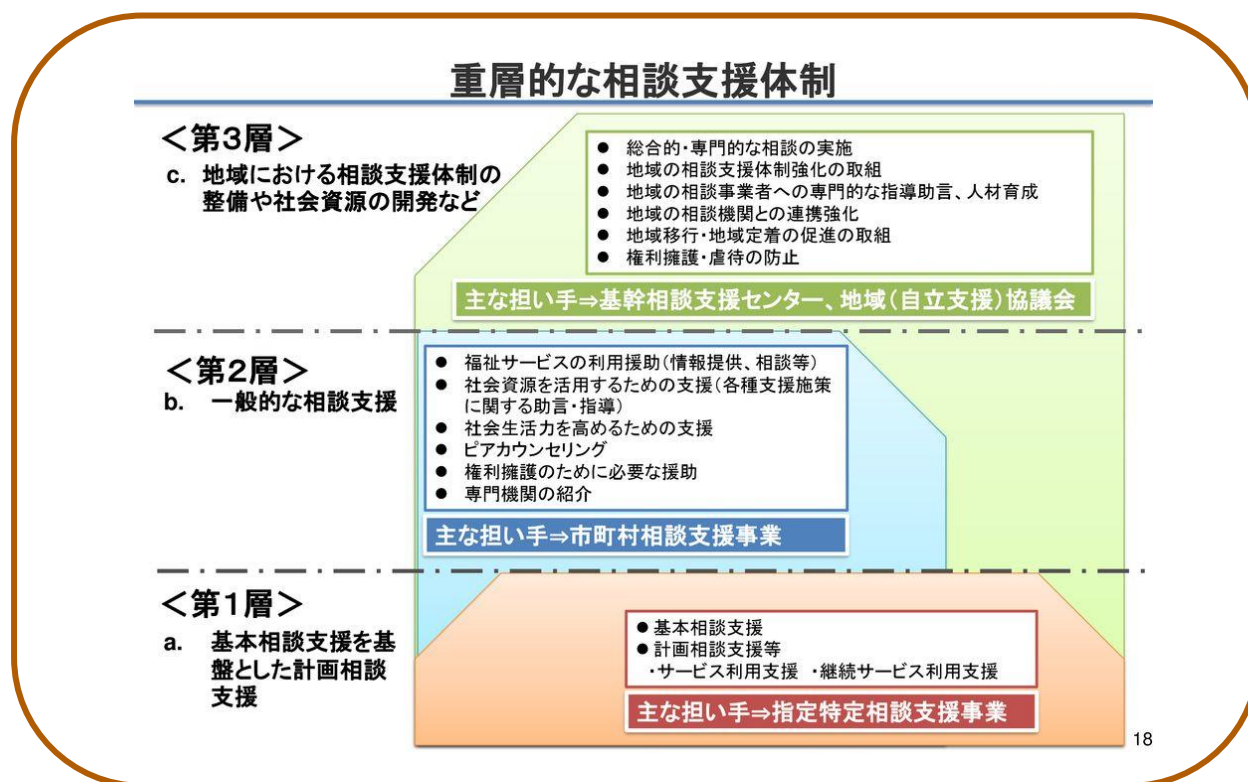
< 重層的な相談支援体制 第1層 >

◎特定相談・一般相談・障害児相談支援事業

一般相談（地域移行・地域定着）については、地域移行コーディネーター以外の職員も担えるよう、地域移行 CO と 2 人体制で支援にあたり所内の育成を進めた。

特定相談・障害児相談（計画相談）は、障害者相談支援事業と一体的な相談支援が必要な方、緊急でサービス利用を開始する必要がある方、福祉サービスで解決の難しい課題のある方（多問題、家族問題等）、圏域外のサービスを利用されている方などの計画を作成した。

主任相談支援専門員 2 名と各種研修修了者を配置し、行動障害支援体制加算、医療児者支援体制加算、精神障害者支援体制加算を取得している。



2 自立支援協議会事務局

諏訪地域障がい福祉自立支援協議会事務局

昨年度、自立支援協議会運営委員会で、第6期障害福祉計画・第2期障害福祉計画の推進会議を実施し進捗状況を確認することと決め、併せて各委員会・部会の協議内容を福祉計画と協議会の連動表に整理したことで、各部会員が協議会全体を把握できるようになった。各委員会・部会において、福祉計画の成果目標を確認したことで協議内容の焦点化ができた。今後、運営委員会と行政連絡会の連動を意識し、協議会を一体的に運営できるよう努める。

令和3年度は「災害の備え」のテーマで、各部会に横断的な協議内容について部会合同のワーキングや研修会の開催等、協議会全体としての取組が進んだことも大きな前進である。

長引くコロナ禍でオンライン会議が続いているが、オンライン会議は対面に比べて意見が出しにくいいため、資料と協議内容（何について意見をいただきたいのか）を事前に送付することで、事務局として会議の円滑化・効率化に努めた。事前の簡易な意見聴取も有効であった。会議前に時間的な余裕を持ち送付できるよう、引き続き努力していく。

ハイブリッド形式と呼ばれる集合とオンライン併用の会議では、音声面で聞きづらさ等の課題が残るため、工夫と研究を重ねていく。オンライン会議は、対面に勝る協議は難しいが、移動の時間がなく参加しやすい。大勢の意見を聞けることをメリットと捉えて、グループワークなどを活用し参加者全員が主体的に発言できる協議会を進めていく。

新規事業所開設の際には、運営委員会や各部会へ周知のために参加を依頼し、協議会全体へ周知の発信をすることで、諏訪圏域内のすべての事業所が協議会へ参加できる仕組みができています。協議会全体として、個別課題からの地域課題の抽出が進んできている。基幹相談支援センターを担うオアシスとして、課題提案型の協議会事務局を目指していきたい。

諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 会議開催数（ワーキンググループは除く）

	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度
全体会	2	2	2	2	2
運営委員会	6	6	6	5	7
行政連絡会		3	6	4	5
地域生活支援拠点の整備検討会	4	7	5	2	3
人材育成委員会	-	-	3	5	4
権利擁護委員会（部会）	(4)	(4)	(4)	3	3
フォーラム実行委員会		8	9	-	5
療育支援部会	5	5	5	5	5
医療的ケア部会	4	4	4	4	4
地域生活支援部会	4	4	4	5	4
就労支援部会	3	5	5	5	5
相談支援部会	6	6	6	6	6
合計	30	46	51	46	53

自立支援協議会「みんなが輝く地域づくりフォーラム」の開催

12月4日（土）～会えない今こそ繋ぎあおう！ 地域丸ごとネットワーク～

杉田あきひろさん 講演『依存症当事者からのメッセージ』

うた『みんなで歌おう！』

10月27日～12月4日 地域の障がい福祉事業所・養護学校のオンライン協働販売会

- ・オンライン参加者 8事業所 + 約70名前後
- ・協働販売会 参加事業所 12事業所 販売件数 37件 売上 116,250円
- ・Zoomを利用したオンラインイベントとして開催。チラシ2万枚を通常の周知配布の他、「見て知ってもらおう」ことを目的として圏域全小中学校、特別支援学校へ配布を行い、町村では回覧板への掲示も行った。
- ・コロナ渦で外出の難しい当事者が、杉田さんと一緒に歌ったり踊ったりして楽しめるイベントを企画、杉田さんの講演とうたの間に、参加してくれた8事業所から地域へ事業所紹介などの発信をお願いすることで、双方向で「会えない今こそつながる」フォーラムを実現した。初のオンラインイベントのため、事務局として事前準備に例年以上に時間をかけた。
- ・協働販売会は、オンライン販売のスキルがなく準備に苦慮した。Link Work とぞうさん、販売事業所それぞれ想定外の事案にも対応してもらい無事に開催することができた。初めての取組にも「いいよ」「やってみよう」と協力してくれる地域の事業所の底力を感じた。事務局としても、業務量や反省点は多かったが達成感も大きかった。

3 地域生活支援拠点等の整備事業の推進

地域生活支援拠点整備事業

事業開始5年目となる令和3年度は、3施設から協力を得て緊急時空床確保事業を行った。利用者は4名。緊急時が想定される方のショートの手配決定が進んでいるため、緊急ショートとの使い分けも整理されてきた。コロナ渦との関連は不明だが、この2年間の利用者が減少した理由を検証する時期と感じている。利用の相談受け付けは3名が市町村、1名が計画相談員だった。

一人暮らしの体験の場の確保や必要な人材育成など、障がい者が親亡き後も安心して地域で生活し続けるためには何が必要かを、相談支援の事例から考え仕組み作りに繋げていく。

利用者	利用理由（一次相談受け）	福祉サービスの利用
女性 30代 知的障害	家族間のトラブル（市町村より）	なし
男性 50代 精神障害	家族間のトラブル（市町村より）	なし
男性 50代 精神障害	家族間のトラブル（市町村より）	なし
男性 50代 身体障害、高次機能障害	家族間のトラブル（相談支援専門員より）	あり（生活介護、訪問看護）

4 発達障がい児者支援の体制整備

長野県発達障がいサポートマネージャー（県委託事業）

長野県発達障がいサポート・マネージャー（サポマネ）配置事業

○ サポマネ活動概要（市町村別・対象年代別、2021年度）

長野県のサポマネ配置事業も9年、諏訪圏域への配置も8年が終わりました。

この事業のねらいは、①発達障がい児・者の支援者を後方支援すること、②発達障がいや当事者への理解啓発をすること、③圏域内に連携の輪を広げることです。

発達障がいの方に関する困難事例を含め、オアシスや事業所を中心とする福祉、児童を中心とする園や学校など教育、医療機関等との支援の連携を後方支援しています。

A【令和3年度の活動報告（4月からの合計）】

項目	圏域・計	岡谷市	下諏訪町	諏訪市	茅野市	原村	富士見町	圏域・その他
活動件数【県①③④】	600	100	55	217	119	10	20	79
個別支援（件数）【県⑤】	473	84	45	206	108	9	17	4
個別支援（実人数）	381	148	36	62	73	8	44	10
うち継続個別支援（実人数）	44	10	3	15	12	0	4	0

B【市町村別・年代別 個別支援の活動報告】

項目	圏域・計	岡谷市	下諏訪町	諏訪市	茅野市	原村	富士見町	圏域・その他
18未満	268	52	38	120	44	4	9	1
（実人数）	339	134	34	55	67	8	40	1
大人	198	34	6	85	65	0	5	3
（実人数）	38	13	2	7	6	0	1	9

項目	圏域・計	岡谷市	下諏訪町	諏訪市	茅野市	原村	富士見町	圏域・その他
就学前乳幼児	76	32	15	9	8	4	8	0
小学生	93	11	23	37	20	0	1	1
中学生	85	7	0	72	4	0	0	0
高校生・等	14	2	0	2	10	0	0	0
大学生・等	1	1	0	0	0	0	0	0
大人の 内訳	197	33	6	85	65	0	5	3

○相談件数

令和3年度の相談件数は、600件、延べ381人の支援をしました（左表）。

市町村別に見ると市部が多く、年代別に見ると園児と小学生に加え中高生も多くなっています。続いて大人の方の支援です。

ここ数年をみると、一年間では概ね600件程度です。最近は、中学卒業後から30歳前後の若者支援が増加しています。

【令和3年度 サポマネの講演活動】

○啓発活動

啓発活動の一環としての講演活動は右表の通りです。サポマネが配置された7～8年前は、「発達障がいとは？」的な依頼が多かったですが、最近は「どんな事例があるか？どうすれば良いか？」「他領域とどう連携していくか」的な、実践的な研修会が多くなっています。

高校を含めた合理的配慮、LD支援など長野県の施策を受けた普及啓発もサポマネが担うことになり、その講演も増えています。

また、教育向けに「サポマネ通信」を発行し、最新の注目情報や圏域の実情・課題についての問題提起を図っています。6市町村教育委員会及び小中高の校長会に配付しています。

月日	場所・依頼者・聴衆	講演内容（演題）
5. 6	岡谷東部中学校職員研修会	高校 入試・授業における合理的配慮～中学校での実践が高校での合理的配慮を左右する～
7. 3	諏訪地区LD等通級担当者会研修会	LDのあるお子さんに対する支援～「早めの気づき・適切な学び」～
8. 4	諏訪地区特Co等連絡会・地区研修	発達障がい児支援 -いよいよLD-～諏訪地区ではどう推進するか～
8.31	諏訪地区特Co等連絡会・高校部会研修会	発達障がい支援～いよいよ高校でもLD支援～
9. 3	諏訪市特Co等連絡会	発達障がい児支援「早めの気づき・適切な学び」～医療と教育の連携～
9.21	下諏訪町特Co等連絡会	同上 ※コロナ感染拡大により中止
10.21	信大医学部希皆的コホート研究（岡谷市役所）	サポマネから見える調査対象児童の教育的背景
10.26	オアシス新任研修	発達障がいとは、ほか3講座
11.30	諏訪地域障がい福祉自立支援協議会・療育支援部会	発達障がい児支援「早めの気づき・適切な学び」～医療と教育の連携～
1.27	原村特Co等連絡会	発達障がい児支援 -いよいよLD-「早めの気づき・適切な学び」
2.28	長野県サポマネ養成講座	教育分野～諏訪圏域の取組～

○オアシス

あそびのひろば

3歳までの幼児を対象とした療育コーディネーター(療Co)との連携事業「あそびのひろば」の市町村別利用状況です。

一昨年度(R2)は3回の計画全てがコロナ禍のため中止に。昨年度も縮小や中止がありました。

療Coによるミニ講座や個別相談も大好評です。市町村保育士等の参加も増加です。

(2) 実参加状況							年 齢 別				285
年度	実施日	岡谷市	下諏訪町	諏訪市	茅野市	原村	富士見町	0	1	2	3
1	26-① 10月23日			11	2			0	0	4	9
2	27-① 7月7日			5	2			1	2	4	0
3	27-② 11月12日	3		7	6			2	6	4	4
4	28-① 6月15日		2	2				1	2	1	0
5	28-② 8月2日	1	9	4				1	5	5	3
6	28-③ 10月27日		3	4	3	2		2	2	4	4
7	29-① 6月21日		4	4	3		1	1	3	7	1
8	29-② 8月3日	3	6	5	1			0	4	8	3
9	29-③ 11月15日		2	16	3	3		2	7	9	6
10	30-① 6月14日		3	7	1	2		0	4	7	2
11	30-② 8月2日	3	4	9	5	5		0	4	15	7
12	30-③ 11月15日	3	3	1	2	7		2	1	8	5
13	R1-① 6月13日	4	1		4	3	1	1	2	5	4
14	R1-② 8月1日	2	2	4	2	3		2	0	7	4
15	R1-③ 11月13日	3	2	2	2	4		2	1	4	6
16	R3-① 6月16日	2		1		1		0	0	4	0
17	R3-② 8月4日							0	0	0	0
	R3-③ 11月17日	6	1	4	1	1	2	2	1	7	5
		30	42	86	37	31	4	17	43	92	58
											230

発達障がい者デイケア『かりんカフェ』の運営

発達障がいの方の交流と安心できる場の提供として月2回の予定だが、令和3年度はコロナ感染防止対策のため9回の開催、参加者が計画を立てて、観覧船乗船、映画鑑賞やオリンピック鑑賞会(TV)、作品制作や紅葉狩りなどを行った。

発達障がい者の活動場所として、長野県発達障がい者支援センターと市町村とともに今後の運営について検討を続けている。

5 社会参加・交流事業

新型コロナウイルス感染症まん延のため、中止。

6 その他

個人情報保護、情報管理の徹底のため、所内のネットワークシステムをインターネット回線から独立させている。原則として個人情報のメールへの添付や個人記録の所外への持ち出しを禁止している。紙ベースの情報保管については、必要のなくなった個人情報の適切な処理を進めている。

7 相談支援事業実績

相談支援件数

相談支援数	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度
(件)	3,022	3,059	3,435	4,189	4,114

新規相談者数

※過去に相談に来られた方は含まない。

新規相談者	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度
(人)	111	140	165	150	138

令和3年度 相談者実数

	岡谷市		下諏訪町		諏訪市		茅野市		富士見町		原村		圏域外・その他		合 計	
障害区分	実人数	相談回数	実人数	相談回数	実人数	相談回数	実人数	相談回数	実人数	相談回数	実人数	相談回数	実人数	相談回数	実人数	相談回数
身体	6	29	3	31	25	121	6	12	3	4	0	0	5	55	48	252
知的	27	123	23	281	49	343	49	255	14	48	5	12	4	7	171	1069
精神	67	436	27	183	99	850	52	292	7	31	5	35	3	51	260	1878
発達	19	122	6	14	25	152	20	114	7	24	1	3	2	4	80	433
重複	2	4	1	0	7	56	5	12	1	2	1	10	1	0	18	84
その他	5	46	1	47	4	158	6	104	3	17	1	8	0	55	20	398
合 計	126	76	61	556	209	1680	138	789	35	126	13	68	15	172	597	4114

計画相談・障害児相談数

	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度
計画相談	35	41	47	55	56
モニタリング数	220	177	144	134	114
障害児相談	3	6	4	3	7
モニタリング数	21	14	11	7	5

地域移行・地域定着支援事業利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度
地域移行	2	2	1	1	2
地域定着	1	2	2	2	2
退院支援	88	130	66	60	74

※「退院支援」事業を利用していない方の支援件数

夜間・休日電話受と対応数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話受数	35	23	20	28	20	17	18	7	8	6	9	11	202
対応数	4	1	4	3	6	2	2	0	1	1	0	2	26

※電話受数には、10分以内の電話対応を含む